

ヨミウリ

14.4.18

ギネス認定の「いやしロボット」を開発 * 柴田 崇徳さん

ヨミウリ

アザラシ型ロボット「パロ」が、「世界一いやし効果があるロボット」としてギネスブックから認定された。

「うれしいが、思いもよらぬところからの評価なので、正直驚いた」。生みの親は少々、とまどい気味だ。

声をかけてやるとパロは体をくねらせ、愛きょうを振りまく。優しくなでてやると目をうっとり閉じ、キュッキュッと鳴いて喜ぶ。ふさふさした毛が心地よい。確かに安らいた気分になる。

ギネスも感嘆したいやし効果は、小児病棟や老人施設では実証済みだった。ほおずりしたり、キスしたり。パロの歌まで作るお年寄りもいた。ふさぎ込んでいた子どもやお年寄りの表情が明るくなり、「介護の負担が減った」など、職員にも好

評を得ていたという。

電子機械工学を専攻した大学院時代は、ロボットは「産業用」だった。「でも、

友達のように対等につき合えるロボットがいてもいいのではないか、と思っていました」

人をいやすペット動物に着目し、試作機をいろいろ作ってみたが「猫型や犬型はつい本物と比べてしまう。これは違

顔

うとすぐ飽きられてしまふんです。結局、アザラシ型に落ち着いた。

二月に英国で開かれた技術展に出品すると、地元メディアが次々取り上げ、パロとともにたちまち時の人に。早くも注目が舞い込み、「年内には商品化する計画」という。パロを待つ人がそれだけ多いのだろう。(つくは支局 安田幸一)

小児病棟・老人施設でも人気者



産業技術総合研究所主任研究員。工学博士。名古屋大大学院修了。35歳。